

## 煙

煙草を吸っては咳をし  
咳が続けば涙がこぼれ  
その涙を哀しみの色に無理矢理染める僕の前に  
果てしもなく味気ない夕暮れが、よそよそしくでかい

抱き締めて、抱き締めて、抱き締めて・・・  
愛のかけらもないのに、僕の空々しい想いが  
真正面から怪訝な表情で見つめる顔に敗北して  
へなへなと崩れて天球を見上げ、ますます拡がる

かつて僕に囁いてくれた自然は、今  
すっかり無言で、勝手にやって  
いつも忙しいという顔をして見向きもしない  
ここに至って僕は自分がのけ者と悟った

ならば煙草をふかすまでよ  
げほごほ咳などかまっちゃいない  
拳句にこぼれた涙なんぞも  
どうせ勝手な色に染めるさ

(1982.6.3)